

# 京都産業大学報

発行

京都産業大学  
京都市北区上賀茂本山  
電話 075(701)2151(代)  
© 京都産業大学  
(1990)

編集

京都産業大学広報室

## 星空に魅せられて

理学部教授

井上 猛



停に着くと階段を上がる。三叉路に来ると迂回をする。そして滝の流れを目と耳で楽しむ。何んとも心が和む。

遠い少年の日に星空の美しさに魅せられて天文学の勉強を志し、以来四十年好きな道を只管歩んで来られたことをこの上なく仕合せなこと

時が流れ年が改まった。生きとし生ける物すべてがこの大自然の申し子であってみれば人間も例に漏れることなくその恩恵には存分に浴している。自然が美しいから美しいと感ずるのか美しいのか兎に角我々を取り巻く自然は美しい。私自身は水の流れが好きだ。通勤の途次、電車が大きな流れを過る際には必ず読書の手を休めて窓外に目をやる。バス

学を通じて自然理解に努めてきたがそこでは物理学数学の学習は不可欠である。微分積分学や代数学幾何学等を担当して来ているが、これらの基礎教科をもそういう観点に立って学習して行くことを常に念頭に置いている。

十九世紀の中葉、フランスのルヴェリエは当時誰一人としてその存在を知ることの無かった未知惑星海王星を、天王星の動きの僅かな

な狂いから計算のみに依って発見に導いたのであった。その後今度は水星の内側に未知の惑星が存在するのではないかと言い出すに至った。水星の運動にそう考えないことには説明不可能な部分があったからである。約半世紀の後に此の問題は一般相対性理論に依って説明するのが良いということになりその見方は今も変わってはいない。この様な定説なものにも拘らずどうしても納得の行き兼ねる処があつて何年も考え続けて来ている。最近になって漸く解決の糸口といったものが見えて来出した。外ならぬ基

礎数学の学習がそれを可能にして呉れたのである。嘗て世界問題研究所の公開研修会の折に湯川秀樹先生のお話を聴く機会があった。質疑応答の際に同僚の一人が教育と研究の両立について尋ねた。先生は言下に研究即ち教育であつて両者は相補い合うものであると仰しやうた。先の問題への取り組みが将にこのことを指しているのではあるまいかと密かに自負し同時に自戒している処である。充実した授業をと念じつつ先程の問題の完全解決に向けて更に前進を続けて行きたいと希っている。

## 年頭にあたって